コープさっぽろ CSRレポート 2012

コープさっぽろ -CO2OP one for all, all for one.

コープさっぽろ経営企画室
札幌市西区発寒11条5丁目10-1 〒063-8501
TEL.011-671-6620／FAX.011-671-5752
http://www.coop-sapporo.or.jp/

-CO2OP one for all, all for one.

コープさっぽろの「マイナスCO_2オペレーション［二酸化炭素削減活動］」
CO_2削減への取組を通して、環境に関する理解を深めエコ活動を推奨、
エコロジー（環境保全）とエコノミー（経済活動）の両立の実現を目指しています。

コープさっぽろ -CO2OP one for all, all for one.

コープさっぽろ CSRレポート2012

編集方針

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」の発行を始めました。2007年からはコープさっぽろの社会的責任（Corporate Social Responsibility: CSR）の視点から活動を報告する「CSRレポート」にあらため、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示に努めてきました。
コープさっぽろのCSR活動は、「事業」と「組合員活動」の両面から成り立っています。報告にあたっては、コープさっぽろの基本姿勢に則して推進している日々の活動の方針や内容を、その進捗状況とともに報告することを基本としています。持続可能な社会の実現に向けて、コープさっぽろが果たすべき役割は何か、そしてどのような取組を行っているのか、活動の一部ではありますが皆さまにお伝えできれば幸いです。

●報告対象期間
2010・11年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2012年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2012年3月20日現在のものです。

●ホームページでの情報公開について
コープさっぽろでは、情報の開示にあたり、本レポートのほかにホームページを活用しています。ホームページには本レポートの記載内容に加え、2010・11年度事業報告、損益状況などのより詳細な情報を掲載しています。（当該情報に関するホームページの公開は、2012年6月を予定しています）

CSRレポート掲載URL
http:// www.coop-sapporo.or.jp

●発行年月および次回発行予定
2012年5月発行。
次回は2013年5月の発行を予定しています。

CSRレポートに関するお問合せ先
生活協同組合コープさっぽろ　経営企画室
〒063-8501　札幌市西区発寒11条5丁目10-1
TEL. 011-671-6620　FAX. 011-671-5752

CONTENTS

コープさっぽろの基本姿勢・環境理念と環境方針……01
コープさっぽろの事業と活動……02
ごあいさつ……03

巻頭特集
東日本大震災におけるコープさっぽろの救援活動
助け合いの原点へ……04

特集 つながりを、ずっと。
地域のくらしを守る……08
子どもたちの未来を応援……10
道産米の可能性を広げる……12
環境にやさしい店舗づくり……14

2010・11年度 CSR活動報告
●事業活動
くらしを向上する新しい事業に取組みます……16
連携の輪を広げ、国内外から学び事業を進めます……18

●社会活動
健康づくりに取組みながら、地域を元気にします……20
助け合いの輪を広げることは、みんなの共通の願いです……21
「食べる」ことを大切に思う場をつくり続けます……22
文化・スポーツ事業が多くの組合員に親しまれています……23

●環境活動
環境保全のネットワークが広がっています……24
地球への思いやりをさまざまな形で実現します……26

コープさっぽろ2011年度環境報告……28
コープさっぽろの環境目的と目標・結果……29
コープさっぽろの組織概要……30
沿革……32
第三者意見……33

コープさっぽろの基本姿勢

組合員への「7つのお約束」と社会的責任

お約束 1　つねに、たしかな商品をお届けして組合員さんに「食の安全・安心」と「より豊かなくらし」をお約束します。

お約束 2　いつも組合員さんの「声」を大切に、組合員さんの願いを実現していくことをお約束します。

お約束 3　組合員さんが「くらしの安心」を願い、互いに学び合い、協同することのお手伝いをお約束します。

お約束 4　誠実に事業を進め、つねに経営を公開し、組合員さんの共通の財産を守っていくことをお約束します。

お約束 5　道内の生協と連帯し、道民生活の向上、道内産業の発展に貢献していくことをお約束します。

お約束 6　地球環境を守り、また福祉・助け合いにあふれた地域づくりに貢献していくことをお約束します。

お約束 7　平和で、人間らしい「豊かなくらし」を実現することに貢献していくことをお約束します。

コープさっぽろの環境理念と環境方針

環境理念

コープさっぽろは、組合員への「7つのお約束」を基本にして、組合員、役職員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かなくらし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。
コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。

環境方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムトドック・共済などの事業を通じ組合員に安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、北海道全体の豊かなくらしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

①事業における汚染の予防に取り組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取り組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取り組みます。
- 組合員の声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取り組みます。

②環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。
③この方針を全役職員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。
④この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取り組みについて定期的に公表します。

コープさっぽろの事業と活動

**店舗や宅配トドックでお届けする商品やサービス、またコープ内外でのさまざまな活動、
コープさっぽろのこれらの事業はすべて、組合員さんのためにあるものです。
人と人とを結び、地域・社会に根ざし、豊かなくらしと安全・安心を創ります。**

生活協同組合とは

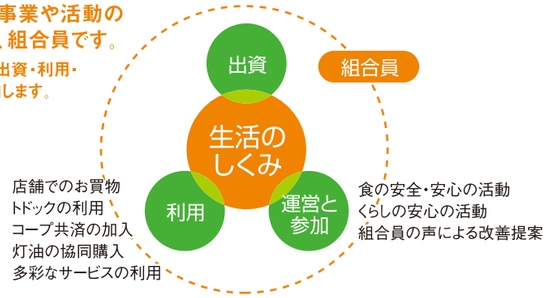
生活 より豊かなくらしの実現のために

協同 それぞれの持っている力を寄せ合って

組合 ひとつの組織（意思）に基づいて

幅広い事業や活動の主役は、組合員です。

みんなで出資・利用・運営参加します。



コープさっぽろは多彩な事業と活動を通じて“組合員の安心生活”を“組合員と一緒に”創造しています。

店舗

大型店舗から地域密着の中小店舗まで、個性豊かな店舗を道内各地に展開。どこでも、同じ商品・サービスをお届けします。

●店舗事業（おいしいお店）

地域・社会活動

誰もがくらしやすい地域づくりをするために、組合員同士の協力のもとさまざまな助け合いの活動を行います。

●コープくらしの助け合いの会
●コープくらしの相談室
●コープさっぽろ社会福祉基金
●ワーカーズコープ札幌
●赤平お買物バス
●移動販売車
●えほんがトドック
●配食サービス
●高齢者見守り協定

共済

少ない掛金でくらしの安心を保障します。

●共済事業

環境活動

●エコセンター
●植樹活動
●コープ未来（あした）の森づくり基金
●レジ袋削減
●環境理念と環境方針
●ECO・OP店

学びと交流

自分磨きができる教室やイベントを開催。また、組合員同士の交流の輪づくりにも役立ちます。

●文化教室、文化鑑賞会
●スポーツイベント主催
●食育イベント主催
●おしごとキッズ

組合員活動

食の安全・安心とくらしの安心を中心に、組合員ならどなたでも参加できる活動を支援しています。

●食の安全・安心を考える活動
●産地見学や多彩な「食べるたいせつ」活動
●環境をテーマにした活動
●福祉や平和、くらしを見直す活動

食の安全・安心

安全・安心な商品を組合員の食卓にお届けするため、厳しい検査や、生産者の顔が見える関係づくりを行っています。

●トレーサビリティへの取組
●コープさっぽろ農業賞
●6つの自主基準
●商品開発
●商品検査室
●北海道100
●黄金そだちシリーズ

宅配トドック

地域や家庭に直接商品をお届けする販売システムです。買物に行けない組合員のくらしもしっかりサポートします。

●宅配事業（トドック）
●ギフト
●灯油宅配

MESSAGE

ごあいさつ

コープさっぽろ理事長
大見 英明

’11年度は、未曾有の震災で幕開けしました。被災された方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げるとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を心よりご祈念申し上げます。

この震災は、日本全体にとって非常に深刻な状況を招くことになりました。同時に発生した福島原発事故は、長期化が懸念され『食の安全・安心』を脅かす重大な出来事として慎重な対応が求められております。

コープさっぽろは、震災当初から被災地への物的・人的支援活動を継続的に取組むとともに、組合員さんからも募金を通して大きな支援が寄せられました。さらには、北海道へ避難されてきた方々への支援や食の安全を確保するための自主検査も継続的に進めてまいりました。

また、この震災は、緊急災害に対する備えの重要性や原子力発電の脆弱性と危険性、そして生協組織の力強さなど、私たちにいろいろなことを教えてくれました。この教訓から、持続可能な社会を実現するために、化石燃料や原子力を中心とした現在の発電システムから、太陽光・バイオマスなどの自然エネルギーへの転換を進めてまいりました。

さて、’11年度は、「3つの貢献（子育て支援・環境対策・地域貢献）を進める」ことをめざし、事業活動および組合員活動を積極的に進めてまいりました。

子育て支援では、「えほんがトドック」を継続して実施するとともに、「ちびっこコープデー」の対象の拡大、仕事体験プログラムの「おしごとキッズ」を拡大いたしました。

環境対策では、’10年度に国内初の木造により店舗建設したエコ店舗をモデルに、環境にやさしいエコ店舗を3店オープンしました。さらには、店舗で発生した食品残渣を使ったリサイクルループにも着手しました。

地域貢献では、地域の生活を守るため、移動販売車21台の導入や配食サービスの拡大を進めてまいりました。また、消費者サイドから農漁業者を応援する「コープさっぽろ農業賞」は、この第8回でいったんのまとめとし、次のステップをめざす取組をしてまいりました。

本レポートは、コープさっぽろの社会貢献の基本姿勢と取組をお伝えし、組合員および道民の皆さまにさらなる前進をお誓いするものです。今後とも、被災地の復旧・復興に向けた支援を継続するとともに、持続可能な社会の実現、北海道での循環型自立経済の推進などさまざまな取組を真摯に推進してまいります。多くの方々に高覧いただき、コープさっぽろに対し、忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いです。

東日本大震災における
コープさっぽろの救援活動

助け合いの原点へ

**’11年3月11日、東北地方は未曾有の大災害に襲われ、
多くの人々のくらしは大変な困難に直面しました。
コープさっぽろは生協グループの一員として、
震災直後から被災地の支援活動に向かい、
義援金や組合員活動によるボランティアなど、
北海道でもさまざまな形で被災者の支援を行いました。
現地入りした職員は被災者や支援者たちから
「協同」の原点や大切さを再発見し、
コープさっぽろの使命について意識を強めています。
救援活動と、そこから学んだことを振り返ります。**

生協グループが、一つになって。

生協の原点には、助け合いの心があります。東日本大震災が起こり、被災3県の生協とその組合員、さらにはすべての被災者の方々のくらしを守ることは、全国の生協の使命です。

コープさっぽろをはじめ、全国の生協には未曾有の災害に対し、1995年の阪神大震災で救援活動をした際の教訓があります。そのときを超える甚大な被害をもたらした今回の大震災に対して、日本生活協同組合連合会（日本生協連）のもと、結束して復興支援の活動を行いました。

コープさっぽろは日本生協連からの要請を受け、まずは’11年3月16日、14トントラック2台に救援物資を積み込み、いわて生協本部へ輸送しました。3月17日から人員の派遣を始め、第一陣支援隊は物資を積んだ宅配の配達用トラックと、現地でのBDF燃料を携えて宮城県へ。そしてみやぎ生協で、現地に集まった支援物資の運搬に携わりました。

支援隊の出発式

第二陣の活動～岩手での移動販売

第二陣支援隊は、岩手県の沿岸の自宅被災者が交通手段を断たれ孤立していたため、支援として移動販売を行いました。被災地に向かった札幌地区本部デリカSVの小林茂行さんは、当時を振り返ってこう語ります。

「私たちはいわて生協本部から宅配トラックで毎日約100～130km移動し、宮古や大船渡などの地域の集会所で移動販売を行いました。自宅被災者の方々は、家が残っていてもライフラインは止まったまま、不便な中で生活されていました。避難所には救援物資が届いても、自宅被災者には届かないという状況でした」。

支援活動は、歯がゆい事が多かったといいます。「たとえば、持っていく物資が必ずしも被災者の方々が求めているものばかりではないこと。地震発生から2週間程度経過し、卵や牛乳、野菜などの生鮮品を求める方が増えていました。しかし、日持ちのしない生鮮品は調達が難しく、全員に行き届く数を持っていけなかったのです」。

小林さんが感銘を受けたのは、それでも不満やクレームを言わない現地の方々の忍耐強さでした。また、東北地方に色濃く残る、地域のつながりにも着目したといいます。「移動販売があるということを、組合員理事の方が地域の組合員に声をかけて人を集めてくれました。だから情報が届かない人がいるのではという心配をせずに済みました。

もし北海道で災害が起こったときに、同じことをできる地域のつながりは残っていないと思います。でも、現地で物がなく閉まっているコンビニなどの店舗を見て、コープさっぽろが災害の時もずっと開いている店であればいい、それならば地域の人も安心できると思いました」。何かあってもあそこに行けば大丈夫と頼られる店をつくること、新しい課題を胸に小林さんは3月31日に札幌へと戻りました。

店舗本部
札幌地区本部 デリカSV
小林 茂行

岩手県での移動販売の様子

第三陣の活動～みやぎ生協の業務再開を補佐

4月に入ると、救援活動から復興支援へと流れが変わっていきます。第三陣支援隊は宮城県で、みやぎ生協が震災後初の宅配注文の回収業務を行うのに協力しました。

震災後から支援物資や支援派遣員の食料など現地活動用の物資を調達し、活動をサポートしてきた宅配事業本部札幌西地区の内田祐二地区長もメンバーに加わりました。「本当

●コープさっぽろの被災地への救援活動

’11年

3月11日	東北地方太平洋沖地震発生（東日本大震災）
3月13日	全店舗 救援募金を開始（～’12年3月20日）
3月16日	支援物資出発【いわて生協へ】 車両／14トントラック2台 物資／水1,000ケース、缶詰150ケース、ソーセージ800ケース、お菓子（各種徳用）300ケース、カイロ125ケース
3月17日	第一陣支援隊出発【みやぎ生協へ】 人員／17名（3月23日帰道） 車両／宅配トラック8台、BDFタンクローリー1台 物資／水150ケース、ハムソーセージ1,000ケース、チョコレート300ケース、かりんとう200ケース、LLコーヒー牛乳150ケース、懐中電灯1,000個

は真っ先に被災地で救援活動をしたかったのです。しかし、まずは支援派遣員が現地で不安なく活動できるよう、後方支援にまわり、体制を整えることが自分の仕事だと思い直しました。4月に入りやっと現地に行くことができました」と話す内田さんは、まずほかのスタッフに先駆けて物資を積んだトラックを運転し、小樽からフェリーで新潟を経由し被災地入りしました。

活動場所は気仙沼市で、みやぎ生協の職員と2人1組になり、組合員の元を巡って宅配の注文票を回収しました。「主な役割は、みやぎ生協の職員の精神的なフォローだったように思います。彼らも被災者ですから、訪問先で組合員の方が被災のお話をされるとそのつらさに共鳴してしまいます。私たちが一緒にいると、移動時間などにその職員の話し相手になれます。少しでも気を紛らわす手伝いになればと思っていました」。

宅配の登録人数の3分の1は別の土地に移動していて、回収は3割程度しか進みませんでした。しかしお店がなかなか再開せず、物資も必要なところに回らない状態を知り、宅配事業の重要性を感じたといいます。

内田さんが現地を回る間、気仙沼の火災の跡の焼け野原を見ることがありました。「これが北海道で起きたらどうなるかとやはり頭をよぎりました。特に高齢の方の『見守り』をどうするかということ。札幌市に民生委員は2,700人しかいません。宅配はそこでも貢献していかないといけないと思いました」。

宅配事業本部
札幌西地区 地区長
内田 祐二

共済支援～全国のお見舞いの気持ちを被災地へ

4月3日からはコープ共済連の支援活動が始まり、コープさっぽろからも職員の派遣をしました。コープ共済では、地震などの自然災害の際、契約者に『異常災害見舞金』をお渡しします。その受け取りの手続きをするための契約者宅訪問を、全国の共済スタッフとグループを組んで行いました。共済推進室の三浦佳那子さんは、その最後の支援のグループとして5月14日～19日に派遣され、仙台市若林区を担当しました。「私が担当したのは津波が来なかった陸側の地域でしたが、気付けば道路が崩れていたり、訪問先でも屋根から落ちた瓦や、壁に入ったひびを見て、地震の凄まじさを感じました」。

共済の手続きでは、書類と一緒に、一羽の折り鶴をお渡しします。その折り鶴は全国の皆さんから寄せられたものです。「お渡しする方には折り鶴の意味、つまり全国のお見舞いの気持ちを一緒に届けているのだということを伝えます。それが自分にも、共済は助け合いの気持ちから生まれたものという原点を思い出させてくれました」。

三浦さんが改めて課題に感じたことは、共済の商品の中でも、お見舞い金の存在が知られていないことです。「共済加入者が増えるほど、お見舞い金によって助け合うことができます」。札幌に戻ってから、三浦さんは共済の案内でより力強く重要性を訴えるようになりました。

コープ共済連に寄せられた
お見舞いの千羽鶴

共済推進室
札幌3地区推進担当（取材時）
三浦佳那子

契約者宅訪問の様子

義援金の総額は2億円を超えた

北海道からもできるだけの支援を。コープさっぽろは震災直後の3月13日から、義援金の募集を始めました。店舗には募金箱を設置し、宅配トドックでも受け付けました。かつてない勢いで募金が集まり、開始1カ月以内で1億7千万円を突破。'12年3月20日までに、合計2億1,979万404円のご協力をいただき、日本生協連を通じて被災県の義援金口座に送金しました。

また、冬に入り、東北3生協の「仮設住宅で暮らす組合員さんへの灯油支援」に賛同し、コープさっぽろでも「あったか灯油募金」として呼びかけをしました。'12年1月1日から1カ月間で742万2,219円が寄せられ、2月23日に東北サンネット事業連合を通じて、いわて生協、みやぎ生協、コープふくしまの各生協にお渡ししました。この募金は3県の仮設住宅で暮らす組合員5,000名の家計負担を少しでも軽くするため、初回1缶分18リットルの灯油に換えてお贈りしました。

北海道に来た避難者にくらしの安心を

北海道庁の調べでは、'11年5月時点で1,300人強の方が東北の被災地から、北海道へ移住されています。被災者の方々は十分な準備もできず北海道に移られ、生活の糧を得ることもままならない状況と聞き、支援が必要だと考えました。

そこで6月1日からは、「生活応援特別割引」を開始しました。り災証明書をお持ちの方、または福島県の計画避難地域からの転出証明書をお持ちの方に特別割引カードを発行し、組合員証（本証・家族証）とともに精算時に提示いただくと購入額の10%を割引するというものです。カードの発行は12月31日まで受け付け、163名の方にご利用いただいています。サービス期間は'12年6月30日までを予定しています。

協同の福祉活動を進めてきた（財）コープさっぽろ社会福祉基金では、公益法人として被災者に対しての支援は使命であると考えました。そこで、まずは震災により道内の高校へ編転入した生徒へ就学支援一時金を支給しました。さらに、被災者支援活動をしている道内のNPOやボランティア団体に対しても助成を行い、助け合いの輪をさらに広げています。

組合員の思いが生んだボランティア活動

震災後に募金活動を行う中、組合員から「ボランティアとして支援活動をしたい」という声が上がりました。そこでコープさっぽろの組合員活動として生活支援ボランティア「きずな」を'11年6月に立ち上げ、被災されて北海道に一時避難または移住されている方に日常生活支援と支援メニューの案内を行っています。

さらに「きずな」では「バザーde支援」として、ボランティアが組合員から提供品を集めバザーを開催しています。11月5日には、初めて北海道の冬を迎える避難者の方のため、冬物バザーを開催しました。募集期間が短いにもかかわらずたくさんの冬物衣料など提供品が集まり、100名を超える避難者の方に無料で品物を提供することができました。その後は一般の方にも格安でご購入いただき、売上げは義援金としました。'12年2月18日には札幌駅前通地下歩行空間にて第2弾を開催。2回のバザーで合計10万4,026円の義援金を集めることができました。

誰かが、誰かのために、何かしたいと思うこと。助け合いの気持ちをつなぐことが生協ならではの最大の復興支援です。職員の思い、組合員の思いを実現し、さまざまな形で復興支援を続けていきたいと思います。

札幌駅前通地下歩行空間での第2弾バザーの様子

これからのエネルギー問題を考えています

震災とともに、福島第一原発事故により原子力発電の安全性が問題になりました。コープさっぽろではくらしを守るこれからのエネルギーについて、原発問題から学習するために、'11年11月10日にジャーナリストの広瀬隆氏を招き「福島原発が教えた放射能汚染の恐怖」をテーマに講演会を実施しました。広瀬氏は福島原発の放射能汚染はいまだに解決せず、関東圏にも継続的に拡大していること、そして日本の原発を廃炉へと進めるには泊原発を止め、北海道の未来を決めることが大切と訴えられました。今後も福島原発についての連続講演会を進めるとともに、エネルギー問題についての活動（P27参照）を実施していきます。

3月21日　宅配トドック注文書にて募金受付開始
3月23日　第二陣支援隊出発、移動販売の支援
【いわて生協へ】
人員／16名（3月29日、31日帰道）
青森生協へ364万円の商品援助
3月24日　エネコープから燃料支援タンクローリー出発
人員／2名（3月26日帰道）
物資／灯油3,000ℓ
3月31日　エネコープで灯油20kℓをみやぎ生協へ支援
（横浜から直送）
4月 3日　第三陣支援隊出発、協同購入再開への支援
【みやぎ生協へ】
人員／10名（4月9日帰道）
4月 8日　共済受付支援開始
（5月19日まで週1名ずつ派遣）
4月 9日　物流用資材支援、オリコン8,000個を
みやぎ生協に支援
4月27日　義援金を日本生協連を通じて送金
（第1回、以降第12回まで送金実施）
6月 1日　店舗で被災者向け生活応援特別割引開始
（～'12年6月30日）
コープ生活支援ボランティア「きずな」
立ち上げ
8月 9日　（財）コープさっぽろ社会福祉基金の
被災者支援開始
11月 5日　「きずな」第1弾バザー開催

'12年
1月 1日　「あったか灯油募金」開始（～2月1日）
2月18日　「きずな」第2弾バザー開催
2月23日　「あったか灯油募金」を東北3生協に贈呈

持続的な事業のしくみを考えて、実行すること。新たな協力関係、ネットワークを築くこと。
未来に向けて、安全・安心で豊かなくらしを実現するために、コープさっぽろは“つながり”をもった事業を続けていきます。

地域のくらしを守る

**買い物難民の解消や高齢世帯の見守りなど、
高齢化する地域の問題解決を事業でアシストします。**

▼『おまかせ便』の車内

◀さっぽろまちづくり
パートナー協定の締結式

配食サービスの献立一例▶

1,000品目を積む移動スーパー「おまかせ便」が過疎地を走る

高齢化・過疎化が進む地域の課題の一つが、小売店の閉店・撤退による“買物難民”の発生です。特に高齢者には長距離の買出しが難しく、これまでコープさっぽろは地域からの求めに応じて過疎地出店を進めてきました。しかし、広大な北海道には、出店がどうしても難しい地域が存在します。無理に出店しても、体力が持たずに撤退すれば貢献にはなりません。

買物難民の方々に、持続的に貢献できるサービスの形とは何か。コープさっぽろは「宅配システムトドック」で全道に商品をお届けしています。しかし「実際に目で見て商品を選びたい」という組合員の声から、実店舗の必要性を感じていました。

そこで’10年から移動販売事業「おまかせ便」を開始しました。

元々移動販売は、夕張市の店舗のない地域で1997年から行っていた実績があります。そのノウハウを生かし、新型の専用2トントラックを導入して全道に展開。高齢者を中心に、どんな商品が必要とされているのかを丹念に聞きとり、生鮮食品やデイリー食品を中心に約1,000品目の商品を積み込みました。休日を除き毎日決まったコースを周回し、所定の位置で音楽を鳴らして到着をお知らせします。

当初は1台、夕張市のみで試験運行という形で始めた「おまかせ便」ですが、現在ではトラックが21台まで増加。高齢者率の高い地域から先行して導入を始め、全道34エリアにまで広がっています。今後は全道をカバーするため、100台の展開をめざしています。

高齢者の見守りを視野に入れた「コープ配食サービス」開始

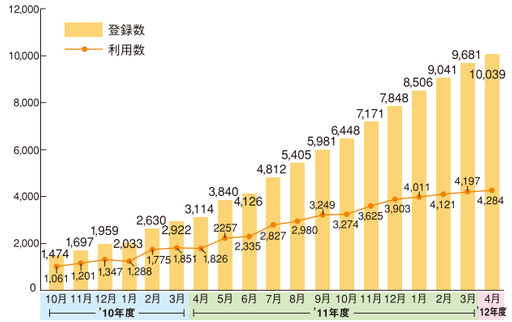
買物難民の問題以外にも、高齢化が進む社会で対策が求められている問題があります。独居など高齢者のみの世帯で、日々の食事をつくることが困難な方々が増えていること。そしてその世帯で何か異変があっても周囲にわからないことです。

そこで’10年10月25日、コープさっぽろは高齢者や一人ぐらし世帯に夕食を届ける「コープ配食サービス」を開始しました。この事業は食事の支援と、ほぼ毎日訪問し、夕食を手渡しでお届けすることで、高齢者の在宅支援と安否確認を行うことを目的としています。

当初は札幌市北区・東区、石狩市、岩見沢市、小樽市で開始し、’12年3月現在で16市町になりました。申込みは月曜から土曜までの5日間のうち3日以上の利用とし、栄養士が監修した栄養バランスの良いお弁当をお届けします。普通食（1食あたり590円）と低カロリー食（同498円）を用意し、健康状態に合わせて選択できるようにしました。

開始から1年が経過した’11年11月には、よりおいしさを追求するために、ホテル料理長経験者である和食料理長を招いてメニュー改善を行い、同時に白石に専用工場を設置し、6,000食の生産体制を確保。旭川、苫小牧にも専用工場を順次新設し、2万食の供給をめざしています。

■配食サービス登録・利用数推移



全道13市5町と協力し高齢者を街ぐるみで見守り

安否確認など見守りのサービスを機能させるためには、自治体との連携が必要不可欠です。警察などの機関が動けないような小さな異変は、地域で「高齢者見守りネットワーク」を構築し、カバーしていかなければいけないからです。’09年6月に小樽センターが小樽市のネットワークに協力参加していて、同様の取組をコープさっぽろ全体で推し進めるため、自治体と単独協定を締結していきました。

はじめに’11年2月22日、札幌市と協定を締結しました。宅配システムトドックと配食サービス事業の配達時に異常を発見した場合、区役所窓口に連絡するというものです。札幌を皮切りに、’11年度末までに18市町と単独協定を締結しました。室蘭市は小樽市同様に既存のネットワークに協力参加し、伊達市は市内60事業者と共に合同で協定を締結しました。

また、札幌市とは取組の発展形として、’11年11月8日に「さっぽろまちづくりパートナー協定」を結びました。これは高齢者の見守りに加え、子育て支援や森づくりなど、福祉・防災・環境保護など多方面で協力しあうことを取り決めました。

地域の方々と共に「安心の街づくり」を進めるため、コープさっぽろはこれからも社会貢献につながる事業を考え進めていきます。

◀▲旭川市（写真左）、余市町（写真上）との協定締結のようす

コープさっぽろ職員による見守りの事例

一人暮らし84歳の女性。
いつも在宅でしたが新聞がたまっていたため、異変を感じ開いていた窓から呼びかけ。返答があり、許可を得て中に入ると、前日に台所で転倒したまま動けない状態だったとのこと。

70代女性。
チャイムを鳴らして声をかけると辛そうな声。目まいがして30分くらい動けない状況だったということで至急救急車を呼び、ご本人から身内の連絡先を聞いて連絡しました。

60代女性。
配達に行くと玄関で奥さんが倒れていました。家の裏にいたご主人に知らせて事なきを得ました。血圧の関係で時々倒れることがあるとのこと。

子どもたちの未来を応援

**子どもたちに豊かなこころを育てるため、
さまざまな支援プログラムで子育てをサポートしています。**

▲宅配トラックの運転席

◀▼円山動物園で宅配の仕事を体験

◀「えほんがトドック」プレス発表の様子

子どもたちの未来を豊かにするため 子育て応援プログラムの強化へ

コープさっぽろの使命の一つが、未来を担う子どもたちの健やかな成長を応援することです。子どもたちが豊かなこころを育てるためには、親子のふれあいや、人・自然・動物や出来事との出会いを通じたたくさんの感動が必要です。コープさっぽろでは、'10年6月に「コープ子育て支援基金」を創設し、新たな取組に着手するとともに、これまで行ってきた子育て支援を整理し「子育て応援プログラム」にまとめました。

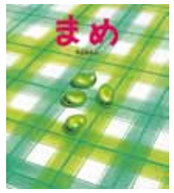
宝物になる絵本と一緒に 親子にふれあいの時間を届ける

コープ子育て支援基金を活用した取組として、コープさっぽろがまず最初に考えたことは、親子のふれあいの時間をつくること、増やすことでした。そこで注目したのが絵本です。子どもは絵本を楽しみながら、大切なものを受け取ることができます。また、親から子どもに読み聞かせて一緒に過ごす時間や絵本がつくる思い出は、親子にとってずっと「たからもの」になると考えたのです。

'10年7月に開始した「えほんがトドック」は、小さなお子さまがいる子育て世帯に、コープさっぽろの推薦絵本を1年に3冊、2年間無償でお届けするものです。絵本は1～3歳を対象に、早期教育が目的ではなく、親子のふれあいのきっかけとなるものを、絵本の読み聞かせ団体や行政、出版社の方を集め専門委員会を設けて選考しています。ラインナップにはトドック配本をきっかけに復刻が実現した名作絵本もあります。

初年度は7,699名、2年目は5,845名の登録があり、累計13,309名に絵本をお届けしました。今後も事業を継続しながら、卒業登録者から意見のフィードバックをいただき、より一層親子のふれあいに役立つ絵本をお届けしていきたいと思います。

'11年度に配本された絵本



第4回
まめ
絵・文／平山和子
（福音館書店）

豆は種であり、土に植えると成長してまた豆を作るという面白さを描いた絵本。

第5回
こうしがうまれたよ
絵・文／海月清則
（芸文社）

春間近の北海道の牧場で生まれた子牛の様子を、愛情あふれる筆遣いで描いた作品。

第6回
めの まど あけろ
絵／長新太
文／谷川俊太郎
（福音館書店）

子どもたちが思わず口ずさんでみたくなる、現代のわらべうた絵本。

仕事はこんなに楽しい！ 夢を広げる仕事体験プログラム

コープさっぽろは子どもや親子を対象に、生命や環境などさまざまなテーマで学べるプログラムを展開してきました。その中でも力を入れてきたテーマが「食育」です。たとえば「食べるたいせつキッズクラブ」は、食の知識や子ども向けレシピが学べるワークブックを年4回届け、子どもを中心に食べることの大切さを学べるプログラムです。

さらに、食べ物が家庭に届くまでのしくみを学んでもらうプログラムとして、年に2回「おしごとキッズ」を実施しています。なかでも実際の店舗を利用し、店長、レジ、各売り場に分かれて仕事を体験してもらう“お店体験”が人気です。食の流通のしくみを知り、将来の夢を広げる機会ともなり、毎回定員いっぱいの応募があります。

夏休み時期には、「おしごとキッズ」の舞台を、提携する円山動物園の飼育体験イベント「円山動物園 Kids Zoo Town」に移し、宅配事業の体験プログラムを行っています。宅配の仕事を実際に体験するほか、宅配トラックに乗ってエネルギーのBDFの説明を聞き、環境についても意識が高まるプログラムとしました。'11年は『おまかせ便』のトラックも初登場し、専用のZOO紙幣での買物を体験。子どもたちがお菓子やお土産を選ぶ時の笑顔が印象的でした。

■2010-11年度の各取組参加者数

	'10年度	'11年度
食べるたいせつキッズクラブ	185名	135名
おしごとキッズ	326名	413名
円山動物園　Kids Zoo Town	1,133名（16日間）	600名（7日間）

時間や労力、家計の負担も できるだけサポート

子育てに悩むお母さんのサポートもまた、コープさっぽろが力を注いできたところです。子育ての情報交換ができる「子育てひろば」の開催や「コープ会」などのネットワークづくり、子育て世帯のトドックシステム手数料を割引する「子育てサポート」などの優遇制度をこれまでに整備してきました。

この取組を強化し、'10年4月2日からは、札幌市の協力のもと、ルーシー店に一時預かり「トドックルーム」をオープンしました。毎週火・金に1～4歳のお子さんを保育士が預かり、買物や用事を済ませるのに役立てていただくものです。

さらに同年8月31日からは家計をサポートする「ちびっこコープデー」がスタート。未就学児童の保護者を対象に、毎週火曜日コープナビタンでチケットを発行し、会計が5%割引となるシステムです。'11年6月には、小学校卒業まで利用枠を拡大、'12年2月までに52,483世帯、64,791名のお子さんにご登録いただいています。

かつて子育ては社会ぐるみで、助け合って行うものでした。近所など社会のつながりが希薄になった現代に、子育てをサポートし、新たな絆をつなげていく役割がコープさっぽろには求められています。助け合いの精神をもって、子どもたちの健やかな成長をこれからも応援し続けていきます。

▶コープナビタン端末で
ちびっこ5%オフ券を発券

道産米の可能性を広げる

新規需要米といわれる飼料米の生産・利用のしくみを道内につくり、安全・安心な「黄金そだち」シリーズを立ち上げました。

▲竹内養鶏場でこめいろゆめたまごを収穫する竹内強さん

▶東川町農業協同組合の板谷重徳代表理事組合長

▼黄金そだちシリーズ

▶飼料米を生産する東川町の水田

食への取り組みの新たなテーマは「お米」

安全・安心な食を守ること、それはコープさっぽろが発足から取組む、原点といえるテーマです。これまでに、食の安全に関する情報を徹底的に開示する食品表示やトレーサビリティの取組、道産食材の普及をめざす「北海道100」など、さまざまな方向から食に関する事業を進めてきました。その中で、さまざまな食の安全の問題の根元には、食料自給率の低下があることに私たちは気付きました。

日本の食料自給率は、カロリーベースで39％、穀物の自給率に至っては25％しかありません※。特に日本の農業の中心といえる米づくりにおいて、減反政策や後継者の問題などで衰退が進み、全国の休耕田や転作地の面積は100万haを超えています。お米の新たな用途を見つけ、北海道の米作と水田文化を守っていくことにコープさっぽろは取組み始めました。

※'10年度農林水産省発表

休耕地を飼料米の水田へ新たな需要開拓が始まった

生産調整により主食用米が作れない水田でも、飼料用米ならば生産することができます。ほかの作物に転作する場合に比べ設備投資が少なく済み、何より米作の技術継承や向上に役立つ点で、米農家にとって大きなメリットがあります。コープさっぽろは'10年度に、飼料米の栽培に取り組むJAひがしかわなど全道10農協をはじめとした生産者の協力を得て、事業をスタートしました。

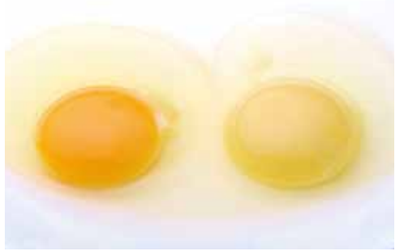
問題は、つくった飼料米の活用と普及にあります。畜産農家にとって、飼料米を使用すると価格の安い輸入飼料よりもコストは高くなりますから、価格ではないメリットが必要です。コストが多少上がっても、安全性などのメリットに目を向けてくれる、志ある畜産生産者を見つけること。飼料米を食べさせて育てた畜産物の優れた点を研究によって明らかにすること。そして、生産された畜産物を消費者に選ばれる新たなブランドとすること、この3つがコープさっぽろに課された課題でした。

「こめいろゆめたまご」と「黄金そだち」シリーズの誕生

幕開けは“たまご”から――。まず最初に協力をいただけた生産者は、安全・安心なたまごの生産に長年取組んできた、音更町・竹内養鶏場の竹内強さんでした。竹内さんは遺伝子組み換えのトウモロコシの安全性に疑問を抱き、いずれ遺伝子組み換えでない輸入飼料が手に入らなくなるのではと懸念を抱いていました。そこで飼育する鶏の一部、1,300羽に飼料米を導入。道産米68％のほか、釧路産の魚粉やサロマ産のホタテの殻など、95％が道産品の飼料を食べて育った鶏は、「こめいろゆめたまご」と名付けられました。

十勝食品加工技術センターの調査の結果、「こめいろゆめたまご」は従来品に比べコクが1.15倍、旨味も増していることが判明。また、コレステロールが少なく、レチノール（ビタミンA）やオレイン酸を多く含むなど、栄養面でも従来品よりも優れていることが確認されました。

コープさっぽろは、道産飼料米を配合した飼料で育てた畜産物のブランドを「黄金そだち」と命名しました。同じく飼料米の利用を模索していた株式会社ホクリョウからの協力もいただき、えさの10％に道産米を使用した「黄金そだちのたまご」の生産が開始。竹内養鶏場の「黄金そだちのこめいろゆめたまご」とともに、'11年2月から全道の店舗と宅配システムトドックで販売を開始しました。



◀右がこめいろゆめたまご、左がトウモロコシ飼料を使って生産された卵。黄身には親鳥が食べた物の色素が反映されるので、こめいろゆめたまごはきれいなレモンイエローになります

黄金そだちシリーズと販売実績（2011年4月～2012年3月）

◀黄金そだちのたまご
売上数 2,052,855
売上金額 352,680,700円

▶黄金そだちのこめいろゆめたまご
売上数 77,792
売上金額 15,013,724円

▶黄金そだちの美瑛豚
売上数 142,364
売上金額 49,121,318円

▶黄金そだちの別海牛乳
売上数 380,064
売上金額 72,217,326円

※店舗・宅配合計、黄金そだちの美瑛豚は店舗のみ

続々と新しい商品が展開し飼料米の需要は増加

以降、'11年3月には旭川地区の店頭限定で「黄金そだちの美瑛豚」を販売開始。6月には「黄金そだちの別海牛乳」を、宅配システムトドックと、釧路・北見・札幌の53店舗で展開しています。

'11年7月27日には、行政・関係団体の参加のもと、第1回新規需要米協議会を開催。約100名の参加があり、飼料米や米粉を使った新たな商品づくりを推し進めるため、今後の展開を話し合いました。コープさっぽろでは、飼料米を食べさせて育てた畜産物（卵、牛乳）による、パンやケーキなど加工品の展開を進めています。事業は好調に拡大し、'11年度は飼料米生産が前年度の2倍の1,550トンに達しました。今後さらなる需要増を視野に入れ、高収量品種の開発が進められています。

世界での食糧の争奪は激しくなるばかりで、このまま穀物価格が上昇すればいずれ輸入飼料と道産飼料米とのコストの差はなくなります。飼料米の取組は、コープさっぽろにはより成長する機会となり、消費者には安定して安全な畜産品をお届けし、さらに農村も活気が増す…北海道全体が支え合って明るい未来を築く取組です。

環境にやさしい店舗づくり

エコな技術・設備を結集した木造店舗「ECO・OP（イイコープ）西宮の沢店」をはじめ、CO_2をできるだけ排出しない店舗の建設・運営を進めています。

▲間伐材を利用した棚が並ぶ

▼ノントレー商品を積極的に展開

▲ECO・OP西宮の沢店

◀木育アフタースクールの様子

建設から運営まで徹底的に CO_2を削減するECO・OP

環境問題は、何かをしてすぐに結果が出るものではなく、持続的に取組を行ってはじめて効果が見えてくるものです。コープさっぽろは3つの大きなテーマのもとに、'08年から継続して環境活動に力を注いでいます。一つは、組合員と共に進める環境保全活動。それから、廃棄物削減・リサイクルの徹底などによる循環型地域社会づくりを、事業として推し進めていくこと。そして最後に、事業活動の環境負荷低減です。

コープさっぽろは全体の環境指針として、'20年までに'07年度比で40％のCO_2排出量を削減することを大きな柱としました。それには大きなCO_2排出源である店舗のつくりを見直し、環境に負荷をかけない店舗をつくることが必要不可欠になります。そのために室蘭工業大学と共同研究を進め、海外の技術を参考に自然エネルギーの活用や省エネルギーの技術・設備・システムによる環境負荷低減を検討しました。さらに、建築資材は地産地消にこだわって、道産の間伐材を使うことを含め、設計・工法にも持続的な環境対策を施し、徹底的にエコな木造店舗「ECO・OP（イイコープ）西宮の沢店」を'10年10月1日にオープンしました。

全国的な注目を集めるECO・OPは ソフト面にもCO_2削減の工夫が

ECO・OPの注目は大きく、オープン直後の10月14日、林野庁の皆川芳嗣長官をはじめ、北海道森林管理局、北海道水産林務部一行10名が視察されました。皆川長官からは「これだけの広さの木造建築（の店舗）は例がない。全国へ広げていきたい」と評価をいただきました。

'11年10月11日には、2011年度グッドデザイン賞の商業・産業用途、建築物・空間分類に道内で唯一選ばれました。国内でも前例のない道産木材を活用した大型スーパーマーケットであることや、最新のエコ設備を設置しエコ店舗のトップランナーをめざした施設コンセプトが評価されての受賞です。

ECO・OPは建物だけでなく、ノントレイ食品の推進、地場の農産物を多く扱うなど、商品の供給や販売方法などでも環境負荷低減をより意識しています。いわば、ハード面・ソフト面ともに、コープさっぽろが持つ環境負荷低減の技術やノウハウを結集したショールームの役割も果たします。店舗を利用する組合員や子どもたちに環境配慮への気付きを与え、意識を高めてもらうことまでがこのエコ店舗の狙いなのです。

エコの拠点となる西宮の沢店と 道内各地に広がるECO・OPの輪

コープさっぽろの環境への取組は前進を続けており、西宮の沢店の設備もさらに進化します。'11年4月28日には、電気自動車（EV）の急速充電器を設置しました。コープさっぽろでは、関連会社の株式会社エネコープへの電気自動車の導入を含め、さらなる電気自動車の普及への貢献をめざします。

さらに'11年度は、子どもたちが木にふれあい親しむ機会をつくる「木育」を推進するため、小学生を対象に「木育アフタースクール」を開催しました。合同会社のこたべ、NPO法人ねおすとの共催によるもので、5月から9カ月間にわたり、子どもたちにナイフや工具を使った木工体験や自然体験を組合わせたプログラムを週1回実施しました。

木造店舗は実験段階であり、コスト面にまだ課題を残しています。しかし木造ではないものの、西宮の沢店のコンセプトを受け継いで、設備などほぼ同じ機能を備えたECO・OP店舗を新店に採用しています。特に'11年12月9日オープンのECO・OP第5号店・とんでん店は、これからの札幌で展開を進めていく小型のエコ店舗の標準形となります。"エコ店舗であることが当たり前"という社会を実現するため、1店ずつECO・OPの輪を広げていきたいと思います。

▲電気自動車用の急速充電器

ECO・OP西宮の沢店のCO_2削減のポイント

■建設時

鉄骨造だったら CO_2排出量 **1,451トン** ▶ 木造にすることで CO_2削減量 **508トン** **35%削減**

■店舗運営

従来の同規模店舗 年間CO_2排出量 **776トン** ▶ 省エネ機器導入で CO_2削減量 **388トン** **50%削減**

道産カラマツ材による木造建築
建設時のCO_2を削減するため、構造材や外内装の仕上げ材には、北海道産カラマツの間伐材4,500本分を集成材に加工して利用。ほかにも断熱性の高い窓ガラスや断熱材を選択しています。

自然エネルギーの利用
屋根にはソーラーパネルを設置し20kWを発電。店舗の南壁面には太陽熱で空気を加熱し暖房に利用するソーラーウォールシステムを導入しています。

自然光&LEDの省エネ照明
照明には消費電力の少ないLEDライトを取り入れています。照明制御（調光）システムの利用や、天窓から自然光を取り入れることで、さらなる省エネをめざしています。

ノンフロン冷凍機で環境負荷低減
冷蔵・冷凍ショーケースには、環境負荷が大きいフロンガスを使用せず、CO_2冷媒システムを採用。消費電力も小さいものを選びました。

その他
・天然ガスを利用したガスヒートポンプ空調システムやガス・マイクロ・コージェネレーションシステムを導入
・電気使用量が多い時に知らせるエコセーバー「見えタロー」を導入

くらしを向上する新しい事業に取組みます。

**生産者と消費者の絆を結ぶ新たな農産品の販売を始めたほか、
余暇、不要品の処分、お墓などくらしのあらゆる場面で快適なサービスを提供しています。**

生産者と消費者の“もったいない”思いから規格外野菜「ぶこつ野菜」の販売が実現

コープさっぽろは、生産者と消費者をつなぐ「コープさっぽろ農業賞」「ご近所やさい」「コープ産直」の取組を進めてきました。その中で、農業の生産地では、流通の規格に合わないという理由で商品化されない野菜がとても多いことを知りました。形が悪い、ふぞろいである、表面に傷があるなど、味や品質では何も問題のない野菜が、規格外となれば市場に出回らず、廃棄されていたのです。生産者への負担は大変大きなものでした。

コープさっぽろはこの「もったいない」を解消するため、’10年7月30日から道内を中心に生産者と協力し、規格外野菜を「ぶこつ野菜」と名付けて、価格を抑えて販売しています。キュウリ、タマネギ、ジャガイモ、ニンジンなどさまざまな野菜を5～10品目ずつ、産地に近い店舗で販売しています。取扱いは全道8地区100店舗44品目でスタートし、徐々にその数を増やしています。組合員からは、「見た目が良くなくても価格が安く、今後も継続してほしい」と良い反応が寄せられました。

ぶこつ野菜は「丹精をこめてつくった野菜を無駄にしたくない」という生産者の思いと、「品質に問題がなければ賢く利用したい」という消費者の思いをつなぐ商品です。これからも、生産者と消費者の間に立ち、双方により良い形で商品の供給を進めていきたいと思います。

▲売り場に並ぶ「ぶこつ野菜」

成果を見る

’11年度の「ぶこつ野菜」販売実績
74,420,000円（’11年7月30日～’12年2月8日）

生活を豊かにするサービス商品を扱う「くらしのひろば」がオープンしました

コープさっぽろが扱う商品は、棚に並ぶ商品だけではありません。安心して生活するため、くらしを豊かに彩るための各種サービスもあります。そこで、これらの「形のない商品」を扱い、安全・安心で豊かなくらしの設計に役立つ情報提供、相談、販売センターとして「くらしのひろば」が’11年4月1日にオープンしました。

「くらしのひろば」で扱う商品は、旅行、保険、太陽光発電申込受付、コープのお葬式「フリエ葬」など、多岐にわたります。将来的には、コープさっぽろが扱うすべての非物販商品・サービス商品の提供をめざします。インターネットやテレビなど、さまざまな手段で情報が得やすい社会になりましたが、反面信頼できる情報の選択が難しくなっています。「くらしのひろば」では、常に組合員の立場に立った情報とサービスの提供を心がけていきます。

成果を見る

くらしのひろば設置店舗数
全道16店舗

組合員の手間なくリユースを進める「コープ買取サービス」スタート

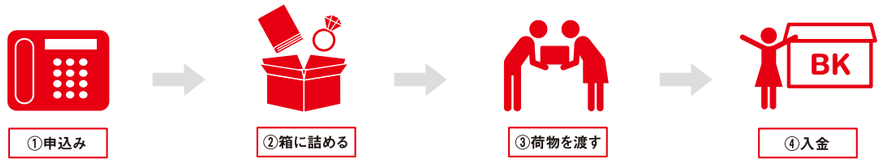
古本や不要なCDなどの買取サービスは需要が増しています。バザーなど地域の中で不要品が行き来する機会が少なくなった現在、コープさっぽろにそのサービスの提供が求められていると考えました。

買取サービスはいくつかの事業者が実施しています。コープさっぽろは、なるべく組合員が簡単に利用ができ、なおできるだけ高く買取ってもらえるサービスを実現できる提携先を探しました。そこでジャパンベストレスキューシステム株式会社とネットオフ株式会社の2社と連携し、’10年8月9日から「コープ買取サービス」を開始しました。その後取り扱う品目を増やし、ブランド品やデジタル家電などを扱う「ブランド・総合買取コース」、書籍やCDなどを扱う「本&CD買取コース」の2コースとなり利便性を増しています。組合員の皆さんにできるだけ負担なく、まだ使える物のリユースにつながる事業を、今後も充実させていきたいと思います。

成果を見る

コープ買取サービスの利用件数
’10年度 2,018件　’11年度 669件

コープ買取サービスの流れ



①申込み
電話またはインターネットで申込み

②箱に詰める
ブランド・総合買取コースは1点から、本&CD買取コースは30点から買取

③荷物を渡す
自宅まで無料で集荷に伺います

④入金
査定額をメールまたはハガキ・封書でお知らせ。OKと連絡すると所定の口座へ振込

コープさっぽろが提案するお墓のかたち「協同の苑」に合祀塔を建設しました

夫婦のため、両親のため、自分のため。お墓はさまざまな形で人生にかかわるもので、安心して利用できるお墓を多くの方が望んでいます。コープのお墓「協同の苑」は、個人墓であり合祀墓でもある、新しい供養のかたちを組合員に提案しています。1994年にコープさっぽろの創立30周年記念事業の一環として検討が始まり、1996年8月に南区・藤野聖山園内の区画に建設されました。

協同の苑は一つのお墓でもありますが、地下には使用者ごとの納骨室があります。普段はモニュメントに設けられた献花台にお参りし、お盆と秋分の日には納骨堂が開放されます。さらに、やがては一つの合祀塔に埋葬されるという独自の方法で運営しています。

’11年6月に、遺骨を土に返す埋葬施設の合祀塔が建てられ、納骨された遺骨はいつでも埋葬できるようになりました。合祀塔には3千を超える遺骨が入り、今後合祀塔に移られる方や、直接合祀塔を利用される方も増えると予想されます。これからもコープさっぽろは、皆さんが望む形での墓地運営を続けていきたいと思います。

▲献花台のあるモニュメント（左）と合祀塔（右）

▼地下にある納骨堂

連携の輪を広げ、国内外から学び事業を進めます。

地域の産業とともに発展していく事業が私たちのテーマです。
さらに'12年は国際協同組合年（IYC）を迎え、国内外の連携を強めていきます。

フィンランド生協連役員を招き IYCプレ北海道集会を開催しました

フィンランド生協連合会（SOK）は、フィンランド最大の流通グループです。コープさっぽろはSOKの自然エネルギーへの取組や商品展開などノウハウを学びたいと、'12年度の友好協定締結をめざしています。'11年10月5日には、SOKのアンネ・サンタマキ国際担当役員をお招きしました。サンタマキ氏にはまずエコセンターで再資源化の前作業を見ていただき、次に物流センターで、宅配トドックのピッキングラインを案内しました。最後に西宮の沢店を見学していただき、日本唯一の木造大型店舗であること、環境に配慮した陳列棚などの什器や店舗設備、システムについて説明しました。

翌6日にはJAグループなど道内の協同組合と共催したIYCプレ北海道集会にお招きしました。サンタマキ氏にはフィンランド生協連の事業とめざす未来、そして国際協同組合年を控えて日本の協同組合に期待することをご講演いただきました。

今後も環境や食の安全など、先進的な取組を学び、事業に生かしていきたいと思います。

▲BDFの取組に強く興味を示されました

▶セルフレジを体験する サンタマキ氏

道内の福祉を担う4社が連携し 医療・健康のネットワークをつくります

高齢化、社会保険制度の行き詰まりなど「健康」への不安が高まっています。医療・健康管理分野で強固なネットワークを築くため、コープさっぽろは「全労済北海道本部」「北海道医療生協」「ほくろう福祉協会」と'12年2月17日に「事業提携に関する協定書」を締結しました。今後、コープさっぽろの宅配や情報誌「ちょこっと」の活用による情報発信や、店舗を利用した医療相談会や介護相談会の開催など、医療・福祉分野でコープさっぽろの事業や施設を活用した社会貢献をめざし、さまざまな取組を進めていく予定です。

▶記者会見で調印する 4事業者代表

生協の支援の輪を道外へ 青森2生協と業務提携しました

経済の低迷が続く中、流通・小売店間での競争は激化し、地方のくらしを守ってきたお店が、業績悪化による苦境に立たされるケースが増えています。コープさっぽろは道内未出店エリアに住む方々のくらしを守るため、道内生協や地方スーパーとの提携・事業継承を進めてきましたが、その目を道外にも広げることにしました。

そこで'10年7月1日に、道外生協では初めてとなる、青森県庁生協、青森県民生協と業務提携の締結を行い、7月21日よりスタートしました。両生協に店舗運営のノウハウを提供するほか、レジ担当者の研修を有料で受け入れるなど人材育成でも協力を行います。また、将来的には一部商品の共同仕入れも行い、効率化を進めていく予定です。生協の理念を守り、より多くの皆さまのくらしを守っていきたいと思います。

質の良い畜産品を提供するために 帯広畜産大学と共同研究を行いました

コープさっぽろは食料自給率と北海道の稲作を守るため、飼料米の取組を進めてきました（P12-13参照）。さらに水田の利用促進を図るため、完熟前の稲を乳酸発酵させた飼料「稲ホールクロップサイレージ（稲WCS）」の肉用牛に対する有用性について、'10年度～'11年度の2年間にわたって帯広畜産大学と共同研究を実施しました。その結果、稲WCSを混ぜた飼料を与えた肉牛は体重の増加や肉質の向上が見られました。そこで'11年7月23日、研究成果の発表とともに稲WCSを食べた肉牛の試食会を開催しました。

▶稲ホールクロップサイレージ

社会と新たな共存をしたプロジェクトとして 日本マーケティング大賞地域賞を受賞

コープさっぽろは'11年5月24日、日本マーケティング大賞の地域賞を受賞しました。食品スーパーの価格競争が激化する中、消費者の安全や高齢者への配慮、環境への取組などのCSR活動強化が認められ、他の流通業との差別化が図れているという理由です。特に宅配「トドック」のブランド化戦略や、BDFの取組、動物園との連携によるホッキョクグマ応援プロジェクト、環境配慮型店舗のオープン、過疎地出店やお買物バス運行などが成果として認められています。これからも、社会のため、北海道の生活者の視点に立った事業をお届けしていきたいと思います。

▲表彰式の様子

Topics［社会活動トピックス］

組合員の声を事業に生かしています

コープさっぽろでは、各コープの店舗に備え付けてある「ご意見カード」「コープベル」インターネットで「組合員さんの声」をお寄せいただいています。その声をもとに事業の改善を進め、さらに快適な店舗づくりや役立つサービスの提供をめざしています。

組合員さんの声

レジ付近の車椅子マークが見えにくいです。車椅子から見えやすい位置にあると親切だと思います。

車椅子マークの表示がわかりにくく、ご不便をおかけしました。マークの表示を、目線の高さへ位置を変更しました。（びほろ店、'11年5月回答）

組合員さんの声

「ナビタンクーポン」ダイレクトメールの封筒は、窓のセロハンをはがさずに古紙回収に出せるようになりませんか？このほうが人にも環境にもやさしいと思います。

費用と材質を検討し、セロハン窓を紙材質に変更しました。コープさっぽろ全体で使用しているダイレクトメール封筒も、在庫がなくなり次第順次切り替えています。（マーケティング室、'11年9月回答）

健康づくりに取組みながら、地域を元気にします。

**コープさっぽろは、組合員のみなさんのくらしが健康で、明るく豊かであることを願い、
道内の大学や行政とのつながりを深めながら、地域の方々の健康増進を図っています。**

地域まるごと元気アッププログラム 赤平市・余市町で開催しました

地域まるごと元気アッププログラムは、産官学（コープさっぽろ、小樽商科大学、北翔大学、赤平市）の協働実験プロジェクトとして始まりました。高齢化が進んでいる地域で、「体力測定会」、「運動教室」、「健康講演会」などを開催して地域の方々の健康づくりを行い、それをもとに地域の活性化を図っていこうというものです。

◀ 運動内容の提案や指導は、生涯スポーツ学部のある北翔大学が担当

スタートは、’10年8月に開催した「あかびら・地域まるごと元気アップ」です。赤平市内3カ所で、60歳以上の高齢者を対象とした体力測定会を実施しました。以降、赤平市で体操教室や健康フェアを開催してきたほか、’11年度からは新たに余市町でも同様のプロジェクトをスタートしました。

成果を見る

体操教室の開催数・参加数

	’10年度	’11年度
赤平市	22回／各59名	46回／各68名
余市町	―――	24回／各71名

体力測定会の開催数・参加数

	’10年度	’11年度
赤平市	6日間／約480名	3日間／約120名
余市町	―――	3日間／約210名

北大フロンティア基金への寄付と コープさっぽろ健康セミナー

コープさっぽろは、’11年度から2年間にわたって、北大病院地域健康社会研究部門への研究資金を、北大フロンティア基金に寄付することにしました。

コープさっぽろが研究資金を寄付している同研究部門では、「予防医学的な情報の地域住民への還元のあり方（発信）」について、’11年度から取組んでいます。コープさっぽろでは、同研究部門の協力を得て、全道各地にある拠点で地域の方々の健康増進を目的とした「コープさっぽろ健康セミナー」を開催し、研究部門に対する費用を北大フロンティア基金に寄付しています。

成果を見る

コープさっぽろ健康セミナー開催状況（2011年度）

地区	開催日	テーマ	参加人数
旭川	6月14日	腰痛の原因と予防	87名
北見	6月22日	歯周病ー その予防と全身への影響	61名
江別	7月13日	子宮頸がんの現状と予防	51名
札幌	7月21日	がんの予防について	102名
釧路	7月22日	腰痛の原因と予防	84名
苫小牧	8月22日	腰痛の原因と予防	55名
帯広	8月26日	うつ病の早期発見・治療	67名
札幌東	8月29日	子供のアレルギー	97名
函館	9月7日	きれいな歯並びと すてきな笑顔をいつまでも	61名
小樽	9月22日	機能性食品と 目の病気の予防	53名

助け合いの輪を広げることは、みんなの共通の願いです。

**募金活動や社会福祉基金など、組合員みんなの善意が大きな力になっています。
だれもが安心してくらせる地域をつくるために、助け合いにあふれた地域づくりに取組んでいます。**

くらしの安心と安定を願って 灯油問題緊急対策本部を再開しました

’11年の年明け、原油価格が2年2カ月ぶりに90ドルを突破しました。国内の灯油在庫は依然少ない状況で、灯油の卸価格が前年11月より数週連続で大幅に上昇。これは「異常価格」との認識に至り、コープさっぽろを含む道内の各生協からなる北海道生活協同組合連合会は、休眠していた「灯油問題緊急対策本部」を再開させました。

北海道民にとって灯油は生活必需品であり、冬季の価格上昇は家計に、特に高齢者世帯・子育て世帯など社会的弱者に大きな影響を与えます。対策本部は、行政・石油元売会社などの該当各部署に対し、有効な対策を要請しました。

▲’11年1月6日、「灯油問題緊急対策本部」再開の記者会見

ユニセフ（国際連合児童基金）活動 ブータンの子どもたちに安全な水と衛生施設を

コープさっぽろは、’10年度から3年計画で、ユニセフ指定基金「ブータン水と衛生プロジェクト」を実施しています。ブータンの地域と学校を指定して、安全な水と衛生的なトイレを設置し、教職員に衛生研修を行い、子どもたちに衛生習慣を普及させることを目的としたものです。

コープさっぽろは、地域にとって本当に必要な支援を“指定募金”として贈呈することが、地域の自立と向上への大きな支えになると考えています。支援を必要としている学校はたくさんあります。引き続き、ブータン指定募金を継続していきます。

▶ 常時、店舗サービスカウンターに募金箱を設置しています

成果を見る

ブータン指定募金

’10年度　10,286,562円　’11年度　11,720,563円

Topics［社会活動トピックス］

「コープくらしの助け合いの会」が、誕生25周年を迎えました

コープくらしの助け合いの会は、“ともに助け合う”というしくみで運営されている非営利団体です。援助を利用したい会員、援助したい会員、活動を応援する会員、それぞれが会費を払って運営しています。

活動内容はさまざまです。普段のくらしに困っている高齢者や障がい者、子育て中の方などに掃除や食事づくりの家事支援を行ったり、託児や保育園の送迎を行う子育て支援、院内介助や薬の受け取りなどの通院・外出介助を行っています。

’11年、コープくらしの助け合いの会は誕生25周年を迎えました。今後も組合員同士の結びつきを深め、助け合いにあふれた地域づくりに貢献していきます。

▶ 記念祝賀会（’11年10月1日）

「食べる」ことを大切に思う場をつくり続けます。

より良い食の環境づくりは、コープさっぽろの大きな使命です。
生産者とのふれあいは農業への理解を深める貴重な場と考え、交流の機会を増やしています。

「コープさっぽろ農業賞」生産者と消費者の笑顔の交流を育みました

「コープさっぽろ農業賞」は、北海道の安全・安心な食を提供する生産者や、消費者との交流に努めている生産者を、消費者の立場から表彰・応援する取組として'04年に始まりました。'11年には8回目を迎え、これまでの応募総数は農業の部852件、漁業の部62件を数えました。

農業賞の取組は、生産者にとっては大きな励みとなり、消費者にとっては農業への理解を深める貴重な場です。地産地消への貢献はもちろん、生産者と消費者がお互いに顔の見える関係になり、それが交流を深め、北海道の元気づくりに貢献できたと考えています。コープさっぽろ農業賞は'11年度の開催をいったんの区切りとして、以降は3年に1度、次回は'14年の開催とします。'12、'13年については「受賞生産者のつどい」や「スローフード視察」「畑でレストラン」などで事業の継承発展を図っていく予定です。

成果を見る

応募数

	'10年度	'11年度
大賞・農業の部	119件	86件
大賞・漁業の部	6件	7件
農業・漁業交流賞	17件	21件
食・農漁業がある絵・写真コンテスト	717件	549件

食べることは命の基本だからみんなでおいしく、楽しく学んでいます

コープさっぽろが主催する「食べる・たいせつフェスティバル」は、安全で安心な食のネットワークをみんなでつくり、地域に根ざした食育や食の活動を進めていくことをめざした大型の食育イベントです。'10年度と'11年度は、全道の各地で開催し、地元のこだわりの生産者・団体が多数出展しました。参加した子どもたちは、試食やクイズ大会などの盛りだくさんの企画を通して楽しく食にふれていました。

食べることは命の基本です。子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくためにも、食べることの大切さを学ぶ場を増やしていきます。

成果を見る

来場者数

開催地区	'10年度	'11年度
札幌	2,464名	1,802名
苫小牧	2,060名	1,100名
小樽	——	941名
帯広	1,578名	2,119名
函館	1,500名	1,250名
釧路	438名	2,347名
北見	2,534名	1,208名
旭川	2,000名	3,200名
総数	**12,574名**	**13,967名**

文化・スポーツ事業が多くの組合員に親しまれています。

組合員の皆さんの豊かなくらしと、未来を担う子どもたちの健やかな成長を願い、
コープさっぽろではさまざまな啓発活動や文化活動、スポーツイベントを行っています。

趣味と教養の講座「文化教室」全道13の会場で元気はつらつと活動中です

コープさっぽろの文化教室には、たくさんの講座が用意されています。音楽、健康、舞踊などの趣味の講座、役立つ教養講座、体づくりの講座のほか、子どもの可能性を育てるジュニア講座も豊富にあります。文化教室は全道13の会場で行われていますが、ほとんどがコープさっぽろの店舗に併設されている（中央教室を除く）ことから、お買物がてらに通える教室として、地域の組合員が活発に利用しています。今後も、組合員からの要望を聞きながら、"学ぶ楽しさ"があるさまざまな講座を開設、運営していきたいと思います。

成果を見る

●**教室**……中央教室、札幌地区（ルーシー／ソシア／平岡／新はっさむ／新道）、石狩地区（いしかり）、岩見沢地区（岩見沢南）旭川地区（シーナ／東光／神楽）、函館地区（山の手）、北見地区（きたみ春光）
●**講座数**……'10年度／1,036　'11年度／1,143
●**生徒数**……'10年度／6,700　'11年度／7,214

毎年3回実施している文化鑑賞会が大きな感動をお届けしています

コープさっぽろ文化鑑賞会は、芸術や文化にふれあう楽しみを多くの人に知っていただくことで、豊かな心を育てていきたいと考え、'95年から毎年、数々の公演を企画してきました。実施する演目は会員からのアンケートを参考に、組合員の皆さんが聞きたい音楽、観たい舞台など、みんなで楽しめる公演を企画しています。'10年度、'11年度も各年3回実施し、合計10,215名が大きな感動に包まれました。

成果を見る

公演名と参加数

開催日	公演名	会員数
'10年3月	寺井尚子コンサートwith宇崎竜童	1,740名
'10年7月	トリニティ・アイリッシュダンス	1,642名
'10年12月	華々しき一族	1,764名
'11年3月	映画音楽の旅	1,650名
'11年6月	劇団四季「ライオン・キング」	1,750名
'11年11月	錦織健テノールリサイタル	1,669名

マラソンから料理教室まで子どもたちの健康な心身を育てるために

コープさっぽろでは、各団体・お取引先の企業と協力しながら、年間40ほどのイベントを開催しています。

水泳やサッカー、柔道などのスポーツを通して北海道の元気を応援するイベント、親子で参加して自然を体験するイベント、家族やグループで参加する食育・健康イベントなど、毎年10,000人を超える方々が参加しています。中でも、'10年度、'11年度は、自然体験や牧場体験などの体験型イベントの人気が高く、また料理教室は親子で参加するリピーターが多く見られるなど、根強いファンを持つイベントが増えてきています。

成果を見る

イベントの開催企画数と参加数

	'10年度	'11年度
スポーツイベント	9企画／9,803名	8企画／8,677名
バスツアー・環境	7企画／678名	6企画／601名
食育・健康等イベント	5企画／169名	9企画／410名
料理教室	13企画／401名	14企画／498名

環境保全のネットワークが広がっています。

コープさっぽろは、環境への関心を高め、共に行動する仲間を増やすことで、北海道全体の豊かなくらしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与しています。

毎日のお買物が、北海道の森づくりに広く役立てられています

コープさっぽろの店舗でレジ袋を辞退すると、一人につき0.5円が基金に積み立てられ、北海道の森づくりに役立てられるしくみが「コープ未来（あした）の森づくり基金」です。組合員一人ひとりの環境への意識が森づくりへとつながることをめざし、'08年7月に設立されました。

基金では、行政や漁協と協力して取組む植樹・育樹活動、森林を育てる団体の支援、組合員が環境や自然への関心を深めるための学習や体験を支援する活動を行っています。

'11年度は、新たに栗山町と植樹協定を締結し、コープの森がまた一つ増えました。栗山町郊外桜山地区の1.14haに、5年間かけてミズナラの森を育てる予定です。また、コープ未来の森づくり基金がより一層全道に広がるよう、基金レポート「モリイク」を発行し、広報を充実させました。

▶植樹から4年を迎えた当別神居尻地区での育樹活動

成果を見る

基金による植樹

'10年度	3,087名	11,892本
'11年度	2,347名	10,741本

行政との協定植樹（コープの森）

'10年度	8地区735名	3,920本
'11年度	9地区698名	4,540本

その他の植樹（2011年度）

漁協女性部植樹活動　1,507名　5,214本
その他植樹　168名　987本
（富良野植樹／当別神居尻の育樹／後藤農園植樹／野付漁協コープの森植樹）

森づくり団体への助成

'10年度	12団体	300万円
'11年度	14団体	500万円

森づくりをサポートするボランティア登録数

'10年度	112名
'11年度	270名

「ホッキョクグマ応援プロジェクト」地球環境への意識が高まることを願って…

コープさっぽろでは、道内の動物園と協働で、絶滅危惧種に指定されているホッキョクグマを応援するプロジェクトを立ち上げています。プロジェクトが始まった'09年は「札幌市円山動物園」と、'10年は「おびひろ動物園」と、そして'11年は「釧路市動物園」と協定を結びました。

ホッキョクグマ応援プロジェクトでは、動物園内のホッキョクグマ舎まで、コープさっぽろのシロクマ「トドック」が誘導するサイン看板を設置。また、店舗・宅配で「エコプロジェクト協賛商品」を販売し、売上げの一部を動物園に寄付するなど、さまざまな形でホッキョクグマを応援する取組を行っています。

動物園は子どもたちの興味と夢を育む場所です。コープさっぽろは、道内の動物園との協働の取組を広げることで、ホッキョクグマに対する理解が広がり、温暖化防止などの地球環境への意識が高まることを願っています。

◀誘導サインでは、コープさっぽろのシロクマ「トドック」が環境を守る行動についてメッセージ

▶愛称募集を実施し、ホッキョクグマの赤ちゃんの愛称が決定しました（'11年8月、札幌市円山動物園）

成果を見る

道内動物園への支援（'11年度）

	年間支援金額	支援期間
札幌市円山動物園	300万円（'09、'10年度は年間500万円）	11年間
おびひろ動物園	200万円	5年間
釧路市動物園	200万円	5年間

美しい農村風景は北海道の宝物だから グリーンツーリズムネットワーク活動開始

コープさっぽろは、北海道の農業生産者と消費者との交流を通して、「北海道の宝物とも言える美しい農村風景を守りたい」「この魅力を全国に、世界に発信することで、北海道をもっと元気にしていきたい」と考えています。この取組を進めていくため、コープさっぽろ、生産者、関係NPO、旅行会社などで組織したのが「コープ・グリーンツーリズムネットワーク」です。'10年6月に活動をスタートさせて以来、「北海道・畑でレストラン」企画のほか、さまざまな産地交流ツアーを実施しました。参加された消費者の皆さんは、畑の真ん中で生産者のこだわりを学び、採れたての新鮮な野菜を食べ、目の前に広がる農村ならではの時間や空間、おいしさを味わいました。

成果を見る

「北海道・畑でレストラン」

'10年度	6回	110名参加
'11年度	2回	60名参加

産地交流ツアー「Doさんぽ」

'10年度	11回	216名参加
'11年度	47回	803名参加

第8回日本経営環境大賞CO2削減優秀賞 第14回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞受賞

コープさっぽろの環境に対する取組が、第8回日本経営環境大賞において、CO_2削減部門の「CO_2削減優秀賞」を受賞しました。'07年度からCO_2を削減する取組を強化し、店舗や事業所の電気使用量の削減、組合員の方々の協力で回収された廃食油を使ったBDFによる宅配トドックの走行などに取組んできたことが大きく評価されたものです。

また、コープさっぽろ西宮の沢店における「二酸化炭素冷媒ショーケースの導入によるノンフロン化の取組」が評価され、第14回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞「経済産業大臣賞」を受賞しました。これらの賞に恥じないように、今後もCO_2削減と環境保全のために取組を強化していきます。

▲日本経営環境大賞表彰式（'10年6月）

▲第14回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞受賞式（'11年9月）

国際森林年記念講演 テーマは「C.W.ニコルと森を考える」

'11年は国連が定めた国際森林年（世界中の、森林の持続可能な保全の重要性に対する認識を高めることを目的としたもの）。これにともない、北海道の森の魅力を広く一緒に考える機会として、国際森林年国内委員会委員でもある、C.W.ニコル氏を迎え、講演会を開催しました。

会場となった道新ホールには約600名の来場があり、ニコル氏は自身の体験を通じた森づくり、森を循環させる生活の大切さについて話しました。

※コープさっぽろ、北海道漁業協同組合連合会、北海道森林組合連合会、北海道新聞社の4団体による共催です。

▶作家、環境保護活動家、冒険家でもあるC.W.ニコル氏（'11年11月18日）

地球への思いやりをさまざまな形で実現します。

**自然エネルギー活用を促進させ原子力発電、化石燃料からのシフトを図ることをめざして、
コープさっぽろは事業における環境負荷低減に積極的なチャレンジを続けています。**

廃てんぷら油で走るトドックトラック 300台パレードがギネス世界記録に認定

全道で展開しているコープ宅配システム「トドック」では、環境対策として'08年よりトドックトラックにBDF（バイオ・ディーゼル燃料）車を導入しています。'10年度にはBDF車が300台に達し、世界一の保有台数企業となったことから、苫小牧市の協力のもと苫東地区にてBDF車300台が一斉走行するパレードを開催しました。ギネス世界記録認定員立ち会いのもとでギネス世界記録にチャレンジし、パレードは無事成功。その後、認定受賞式が行われました。

コープさっぽろは、このイベントを通じて、資源のリサイクルを組合員および道民の皆さんにこれまで以上に広く呼びかけ、さらにCO_2削減による地球温暖化防止に取り組んでいきたいと考えています。

▲1台目の車両がスタートしてから約40分かけ300台が無事完走（'10年9月26日）

全道の店舗や宅配で発生する資源をエコセンターで回収、再利用しています

コープさっぽろの「エコセンター」は、店舗や組合員の家庭から回収した資源物をリサイクルしやすい形に処理する施設です。'08年に江別市に開設され、資源は全道各地で配送を終えたトラックで回収して戻るという、環境負荷をかけないしくみで事業を行っています。

エコセンターでは循環型の地域社会づくりのための取組を学んでいただけるよう、施設の開放を行っています。複数の資源物の処理を行う屋内施設は道内でも珍しく、組合員だけではなく近隣の方、学校の児童・生徒、さらには他事業者や自治体関係者の見学など、さまざまな方の環境学習等に役立てられています。

成果を見る

エコセンターの主な資源物回収量

	'10年度	'11年度
ダンボール	16,456トン	16,291トン
紙パック	302トン	313トン
週刊トドック（カタログ）	6,293トン	6,673トン
新聞紙	699トン	817トン

	'10年度	'11年度
天ぷら油（廃食油）	671,742リットル	736,688リットル
発泡トレイ	474トン	471トン
アルミ缶	36トン	41トン
内袋	71トン	82トン

スマートメーターシステムを導入しエネルギー使用削減を強化します

コープさっぽろでは省電力への対応に努めてきましたが、'11年7月、大幅なエネルギーの使用削減をめざし、通信機能を備えた高機能の電力計「スマートメーター」を導入しました。日本の流通業としては初めての導入となりました。

スマートメーターは、IT大手のグーグル社の技術を活用して開発したシステムで、各店舗に設置するスマートメーターをインターネットに接続し、ネット上のサーバーで情報を管理します。10分単位で店舗の電力使用量がわかるようになっているほか、売り場ごとの使用量もわかるため、より細かな管理を行うことで省電力を強化していく予定です。

▶主要機器・系統ごとに設置されたキュービクル内のエコパワーメータ

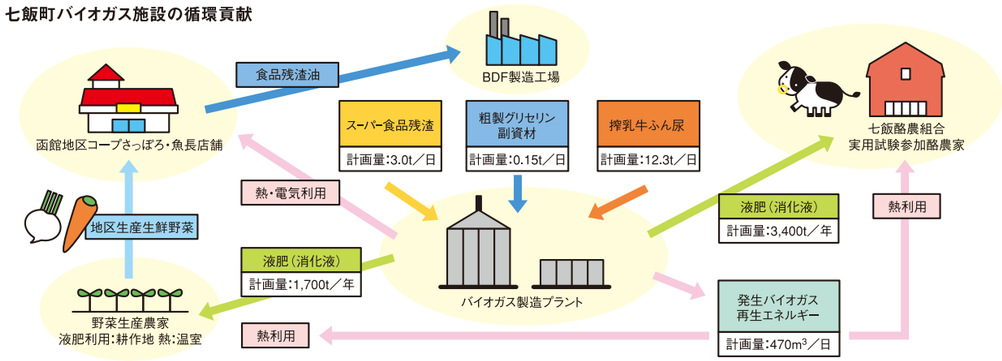
七飯町にバイオガス製造プラントを建設して循環型社会への貢献を果たします

コープさっぽろは、渡島管内七飯町にバイオガス製造プラントを建設することとしました。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）との共同研究事業で、地域循環型再生エネルギー利用の実現をめざす取組の一つです。

バイオガスとは、有機性廃棄物（生ゴミ）や家畜のふん尿などを発酵させて得られる可燃性ガスで、再生可能エネルギーであるバイオマスの一つです。新たに建設される七飯町のバイオガス製造プラントでは、函館地区の店舗や食品工場から出る食品残渣と、大沼周辺の酪農家から集めたふん尿でバイオガスを製造します。これをエネルギー源として活用し、また副産物でできる液肥を野菜生産者に供給し、そこで生産された野菜をコープさっぽろが買い入れるという循環型社会の実現をめざしています。

今後は実験プラントでの実証結果を踏まえ、道内の各地でバイオガス製造プラント建設を進めていきたいと考えています。

七飯町バイオガス施設の循環貢献



※1.当施設からの汚水の排出はありません。また、生活排水（トイレ、雑水等）は溜置きし、汲み取りにて町の処分場へ運搬し処理いたします。
※2.スーパー食品残渣の内、大型魚の内臓及び貝類のウロは選別除外いたします。

Topics［環境活動トピックス］

脱原発と自然エネルギー導入促進を北海道庁に強く要請しました

東日本大震災による福島第一原発事故で原発への不安が高まっている中、コープさっぽろは北海道庁に対して、「脱原発と自然エネルギー促進を求める要請」を行いました。

道では条例108号として「北海道省エネルギー・新エネルギー促進条例」を'01年1月から施行しています。同条例には原子力を過渡的なエネルギーと位置づけており、「脱原発の視点に立って限りある資源を可能な限り将来に引き継ぐとともに、道内で自立的に確保できる新しいエネルギー利用を拡大する責務を有している」としています。

'12年度からはこの条例に基づく行動計画が策定されることから、コープさっぽろは行動計画に脱原発と自然エネルギー導入促進を反映した、より具体的な内容を盛り込んでいただきたいという要請を行いました。

要請事項

①脱原発への道筋を明らかにしてください。原発を即座に廃止できない場合でも期限を決めて脱原発の道筋を明らかにしてください。
②自然エネルギーを推進するために電力の自由化を求めます。自然エネルギーを導入できない家庭でも、自然エネルギーを購入できるようにするべきです。
③自然エネルギー導入の際の補助金の拡充を求めます。太陽光、バイオマスなどを家庭で導入するにはまだまだ価格が高く普及が進んでいないのが現状です。エネルギー自給率が高まれば化石燃料依存度が下がり、経済的にも環境的にもメリットがあります。
④自然エネルギー推進のために産官学民を交えて審議する場を設けてください。審議の場には消費者の代表として一般消費者の代表を確保してください。

コープさっぽろ 2011年度環境報告

eco PROJECT 2012

コープさっぽろでは08年度に「エコプロジェクト21」をスタートさせて22のテーマの実践に取組み、環境の保全・改善に大きな成果を上げました。以降エコプロジェクト21で得た経験を活かし、毎年新たなアクションプランを設け、取組を進めてきました。2011年度も16のアクションプラン課題を掲げました。ここでは、その取組の結果をまとめ、ご報告いたします。

達成
未達成
評価不能

2011年度 環境活動テーマ	アクションプラン	評価	評価の根拠
組合員と共に進める環境の取組	コープ未来（あした）の森づくり基金のもと引き続き1万本の植樹活動を進めます	達成	全道で各自治体や他団体との植樹活動が進みました。「コープの森植樹祭」は9カ所で開催 10,741本の植樹を行いました
	環境への関心を高め 共に行動する仲間を増やします	達成	10月を環境月間と位置づけ13の学習会を実施
	家庭での省エネを促進する 新たなしくみを検討します	評価不能	スマートメーターは店舗実験に留まりました。ソーラーパネルは前年プラス60件と普及が進みました
	取り扱い商品にカーボンフットプリントの表示を増やします	未達成	アイテム数33から46まで増えましたが 目標60まで届きませんでした
	ご近所野菜等地産地消の取組を強化します	達成	ご近所野菜が前年比143%と大きく伸長。ぶこつ野菜も伸長しています
	環境配慮商品の取扱いを さらに強めます	達成	黄金そだちシリーズは加工品の開発も進み 19品目まで拡大
廃棄物の削減とリサイクルによる循環社会形成のための取組	エコセンターへの資源回収量の 拡大と3%アップをめざします	未達成	回収量は101.6%に留まりました。ダンボールの回収が減少しています
	宅配BDF車両の350台化を図ります	達成	350台実現しました
	店舗で発生する食品残渣（生ゴミ）を使ったリサイクルループを実現します	評価不能	函館地区バイオガスプラントは計画発表し '12年度実現予定
事業分野での改善活動による環境負荷削減の取組	電気使用量のさらなる削減（既存店比3%目標）のためにそれにかかる投資対効果を検討しつつ実施します	達成	電気使用量は前年比3.0%削減実現。LED照明が大きく拡大
	太陽光など自然エネルギーを使った発電の事業を組合員の協力を得ながら開始します	評価不能	計画段階で終了。本格検討は'13年度になります
	宅配におけるBDF使用によるCO_2削減分を活用した排出権取引を実現します	評価不能	取引に向けた試算は終了。最終実現に向けて準備中
	室蘭工業大学との共同研究とエコ店舗研究会の成果を反映させ、さらにエコ店舗のトップランナーをめざします	達成	エコ店舗研究会で西宮の沢店の1年点検を行いCO_2量50%削減を実現。その後ECO・OP店舗は5店まで拡大。LED電球の導入が拡大しました
	物流の効率化によりコスト削減と環境負荷軽減を図ります	達成	地方物流再編でのCO_2量削減が進みました
	脱トレーをさらに促進していきます	未達成	事業増もありトレー自体は3.2%増加。ただし回収が進み負担金は2.8%削減
	紙の使用量をさらに15%削減します	達成	16.5%の削減を実現

コープさっぽろの環境目的と目標・結果

2011年度全体の環境目的と目標・結果について整理しましたのでお知らせします。

達成
未達成
評価不能

2011年度目標	評価	評価の根拠
ノーレジ袋目標90%	未達成	'10年度89%から'11年度89.3%まで上がりましたが 90%にはわずかに届きませんでした
ISO14001の返上 独自の環境マネジメント確立	達成	11月に返上。各事業所でエコ委員会を立ち上げました
CO_2量削減目標 3,700トンの削減目標	達成	17,456トンの削減。電気削減のCO_2排出係数の大幅減で大きく下がりました。排出係数が同じだとすると6,594トンの削減

コープさっぽろの組織概要

コープさっぽろは、組合員139万人を擁する全道に広がる組織です。その組織率からしても地域社会の期待は非常に高いものがあります。今後よりいっそう経営の健全性を強めるとともに、地域に広がる組合員活動の充実に努め、北海道の元気につながる「社会的役割」を発揮するコープさっぽろをめざします。

名　　称	生活協同組合コープさっぽろ （生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更）
創　　立	1965年（昭和40年）　7月18日　創立総会 10月1日　創業開始
本　　部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員（常勤）	●理事長　大見　英明 ●専務理事　山口　敏文 ●常務理事　福田　信 ●常務理事　中島　則裕 （2012年3月現在）
活動エリア	北海道全域（定款）
組合員数	1,391,552名（2012年3月20日） （北海道の世帯数2,670,572世帯）（2011年3月31日） 組合員組織率52.1% （札幌市46.1%、旭川市62.6%、函館市57.5%、石狩市70.0%など）
出資金	616億8059万円（2012年3月20日現在）
事業高	2,545億4,900万円（2011年3月21日～2012年3月20日） 1,768億2,800万円（店舗事業） 732億3,100万円（宅配事業） 14億5100万円（共済事業） 28億6,400万円（その他）
従業者数	正規職員　1,355名 契約社員　1,123名 パート・アルバイト　9,844名 （2012年3月20日現在）

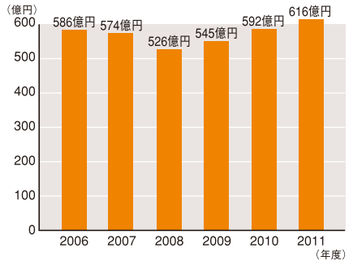
資料 出資金の状況

■年度別出資金動態

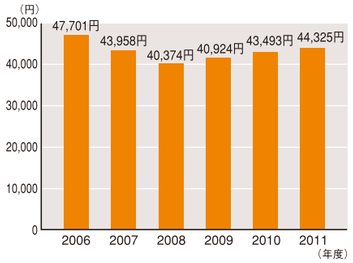
項目／年度	金額（千円）	前年比増加額（千円）	増加率（%） 対前年比	増加率（%） 2006年度基準
2006	58,605,584	15,379,826	136	100
2007	57,351,914	▲1,253,670	98	98
2008	52,641,212	▲4,710,702	92	90
2009	54,504,525	1,863,313	104	93
2010	59,244,286	4,739,761	109	101
2011	61,680,589	2,436,303	104	105

※2006年度、道央市民生協から96.6億円、コープどうとうから14.6億円合わせて111.2億円の出資金を引き継ぎました。
※2007年度、コープ十勝から15.6億円の出資金を引き継ぎました。
※2008年度4月の定款変更で1組合員の有することができる出資口数の限度が五千口（500万円）となり、出資金の減少となりました。

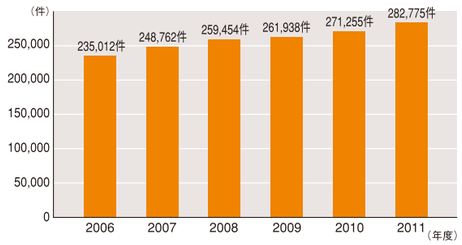
■年度別出資金残金



■1人当たりの平均出資金

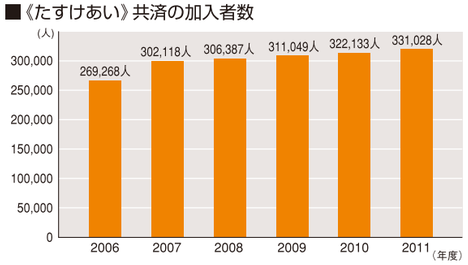


資料 宅配（トドック）の参加情報



資料 CO・OP共済の状況

■《たすけあい》共済の加入者数



コープさっぽろの事業所数と形態

本　部

本部1
地区本部6（旭川、函館、釧路、苫小牧、北見、帯広）

店　舗

107店舗（2012年3月20日現在）28市17町

●札幌市25店舗
●江別市 2店舗
●北広島市 2店舗
●石狩市 1店舗
●千歳市 2店舗
●小樽市 3店舗
●余市町 1店舗
●倶知安町 1店舗
●岩見沢市 2店舗
●美唄市 1店舗
●夕張市 1店舗
●旭川市 8店舗
●深川市 1店舗
●砂川市 1店舗
●滝川市 1店舗
●富良野市 1店舗
●留萌市 1店舗
●函館市 8店舗
●北斗市 1店舗
●苫小牧市 5店舗
●伊達市 1店舗
●木古内町 1店舗
●幕別町 1店舗
●むかわ町 1店舗
●白老町 1店舗
●新ひだか町 1店舗
●浦河町 2店舗
●えりも町 1店舗
●様似町 1店舗
●釧路市 6店舗
●根室市 1店舗
●釧路町 1店舗
●白糠町 1店舗
●中標津町 1店舗
●北見市 3店舗
●網走市 1店舗
●遠軽町 2店舗
●美幌町 1店舗
●帯広市 2店舗
●室蘭市 3店舗
●赤平市 1店舗
●別海町 1店舗
●登別市 3店舗
●恵庭市 1店舗
●福島町 1店舗

コープ宅配システム トドックセンター

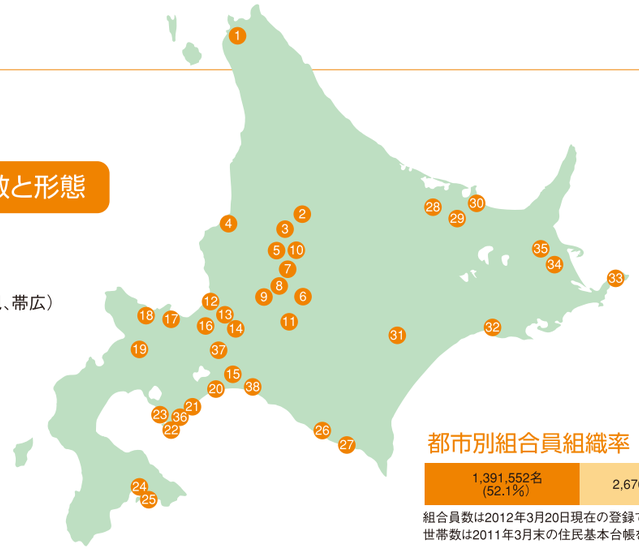
25センター＋5デポ（2012年3月20日現在）

物流関連

旭川物流センター、釧路物流センター、苫小牧物流センター、江別物流センター、函館低温物流センター、農産セットセンター、江別生鮮加工センター、石狩食品工場、配食白石工場、エコセンター

子会社

13社（2012年3月20日現在）
●コープフーズ株式会社
●シーズ協同不動産株式会社
●コープ協同不動産株式会社
●シーズ協同開発株式会社
●コープ協同開発株式会社
●株式会社シーズ能力開発センター
●株式会社エネコープ
●コープ協同保険株式会社
●北海道はまなす食品株式会社
●デュアルカナム株式会社
●有限会社コープ協同サービス
●有限会社ドリームファクトリー
●株式会社道環

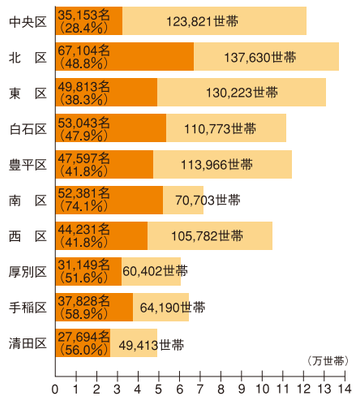


■年度別組合員動態

項目／年度	組合員数（人）	前年比増加数（人）	増加率（%） 対前年比	増加率（%） 2006年度基準
2006	1,228,610	206,819	120	100
2007	1,304,696	76,086	106	106
2008	1,303,846	▲850	99.9	106
2009	1,331,835	27,989	102	108
2010	1,362,134	30,299	102	111
2011	1,391,552	29,418	102	113

※2003年度はくしろ生協から58,500名を引き継ぎました。
※2005年度は宗谷市民生協から5,575名を引き継ぎました。
※2006年3月21日道央市民生協から119,168名を引き継ぎました。
※2006年6月21日コープどうとうから59,858名を引き継ぎました。
※2007年3月21日コープ十勝から55,804名を引き継ぎました。
※2009年3月20日、住所不明・未利用者33,182名を法定脱退処理しました。
※2010年3月20日、住所不明・未利用者5,853名を法定脱退処理しました。

■札幌市行政区別組合員組織率

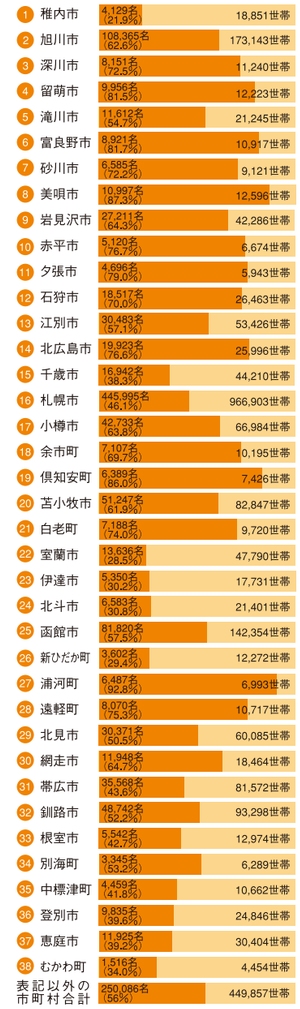


組合員数（組織率）
総世帯数

都市別組合員組織率

1,391,552名（52.1%）	2,670,572世帯

組合員数は2012年3月20日現在の登録で表記しています。
世帯数は2011年3月末の住民基本台帳を使用しています。



沿革

1965 7月18日創立総会　10月1日創業開始　名称:札幌市民生活協同組合
店舗数2　組合員数1,000人　初年度事業高2億5,600万円

1969 小樽市民生協と統合

1970 旭川市民生協と統合

1973 商品検査室設置

1975 北海道知事より優良組合の表彰を受ける

1977 CO・OP共済（火災、生命）扱いスタート

1978 中央市民生協、函館市民生協と統合

1979 真駒内団地生協と統合

1981 協同購入事業月例配達　店舗遠隔地でスタート

1990 生活協同組合市民生協コープさっぽろへ名称変更

1995 創立30周年
店舗数116　組合員数782千人　事業高1,756億円

1997 「おいしいお店」バージョン店舗改装スタート
協同購入事業での戸配事業スタート

2000 生活協同組合コープさっぽろへ名称変更
全国の生協とともに進めた「食品衛生法改正を求める国会請願」の
署名にコープさっぽろ34万筆を提出
店舗数87　組合員数884千人　事業高1,461億円

2002 道央市民生協との事業提携
「生鮮食品表示自主基準」運用
店舗数65　協同購入支部数22　組合員数899千人　事業高1,502億円

2003 釧路市民生協との統合、宗谷市民生協との事業提携
第19回読売広告大賞「読者が選ぶ広告の部」で読者賞を受賞
全国初、消費者が生産者におくる「コープさっぽろ農業賞」スタート
北海道の「食の安全・安心条例」制定に向けて要望書提出

2004 第57回広告電通賞「北海道地区優秀作品賞」受賞
「加工食品の原料原産地表示自主基準」運用

2005 宗谷市民生協との統合、コープ十勝・コープどうとうとの事業提携

2006 道央市民生協・コープどうとうとの統合　根室支庁に2店舗初出店
協同購入・戸配事業の名称をコープ宅配システムトドックへ名称変更
店舗数96　コープ宅配システムトドックセンター数32センター
組合員数1,229千人　事業高2,160億円

2007 コープ十勝との統合
店舗数95　コープ宅配システムトドックセンター数26センター、5デポ
組合員数1,304千人　事業高2,320億円

2008 コープさっぽろ寄附講座開催（北海学園大学経済学部／
酪農学園大学酪農学部　食品流通学科）
レジ袋有料化スタート
エコセンター始動

2009 志賀綜合食料品店、別海農協、（有）魚長との提携
旭友ストアーからの事業継承
札幌市円山動物園と提携、ホッキョクグマ応援プロジェクト開始
BDFトドック車両稼働、240台に増加
社会福祉基金が公益財団法人認可

2010 カーボンフットプリント表示商品スタート
一時保育トドックルームスタート（ルーシー店）
えほんがトドックスタート
おびひろ動物園と協定
移動販売車スタート
BDF使用トラックギネス登録パレード
ECO・OP西宮の沢店オープン

2011 黄金育ちシリーズの卵、別海牛乳、美瑛豚販売スタート
札幌市と安否確認協定締結
東日本大震災救援物資、支援スタート
くらしの広場スタート
配食サービススタート
スマートメーター実験スタート
フィンランド生協連合会役員来札
札幌市とまちづくりパートナーシップ協定締結
釧路市動物園と協定

2012 全労済、北海道医療生協、ほくろう福祉協会と事業提携
〈10年度、11年度の新店〉
10年 3月　岩見沢東店
4月　恵み野店　あさひまち店、ふくしま店、のぼり別東店、
ツインハーブ店、4条通り店
5月　きこない店、はぎの店
7月　アモール店
10月　西宮の沢店
11月　さつない店
11年 5月　新橋大通店（釧路市）
12月　びほろ店、とんでん店

開業第1号店の大学村店（札幌市）

「おいしいお店」第1号店の新道店（札幌市）

とんでん店（札幌市）

新橋大通店（釧路市）

第三者意見

コープさっぽろの CSR活動への大きな期待

東海大学
国際文化学部
教授
川崎一彦

東日本大震災――助け合いの原点へ

東日本大震災は私自身にとっても、自分の生きる意味、生まれ育った地域や日本のあり方、本当の幸せとは、等々について、改めて深く考える機会になりました。

そしてボランティア、プロボノ、パラレルキャリア、社会的企業等が大きく注目され、多くの日本人の共感を呼びました。アルビン・トフラーの「無償の経済活動が貨幣経済を脅かす」、舘岡康雄の「利他性の経済学」を現実のものとして実感させられたのです。

コープさっぽろは、義援金、ボランティアなど、東北で広範な救援活動を展開されました。（P4～P7）生協の原点にある〈助け合いの心〉が問われ、実践されたのです。コープさっぽろのCSR活動の意義も新たな次元に入った、と言えるでしょう。

コープさっぽろのCSR活動への大きな期待

私はスウェーデンから札幌に赴任して四半世紀近くになりました。この間の日本は「失われた20年」。経済と地域の再活性化、少子高齢化、「無縁社会」、男女共同参画、ワークライフバランス、持続可能な社会、教育、等々の山積する問題を抱える〈課題先進国〉であり、閉塞感が漂っています。

一方、フィンランド、スウェーデンなど北欧型の政策モデルが世界的に注目されています。福祉、経済、そして持続可能性の3つを並立させている社会だからでしょう。

フィンランド、スウェーデンなどの北欧諸国は世界最高水準と言われる福祉国家を築き上げてきました。その背景にあって、変革を支えてきた大きなムーブメントの一つが協同組合でした。生活、住宅、農業、保険等の協同組合は北欧の人々の生活に深く浸透しています。たとえば私のスウェーデン人の妻は、生協以外のお店では買い物をするな、と親に言われて育ったそうです。

コープさっぽろはフィンランド生協連合会（SOK）と2012年に友好協定を締結する予定です。（P18）

フィンランドの教育が近年世界で注目されています。コープさっぽろ元町店にオープンする託児施設では、「北欧をモデルとしたプログラム」を特色と謳っています。コープさっぽろは「子どもたちの未来を応援」する活動（P10）を積極的に展開されています。私はフィンランドとの提携も活かし、教育の分野でも一石を投じてほしい期待を持っています。

コープさっぽろのお約束――幸せの具現化

コープさっぽろは組合員への7つのお約束の中で、以下のように基本姿勢を明示されています。

お約束7　平和で、人間らしい「豊かなくらし」を実現することに貢献していくことをお約束します。（P1）

これは〈幸せ〉の具現化、と私は解釈します。市民一人一人や家族の、北海道の、日本の、そして世界の幸せが今日注目されており議論が盛んです。

〈想定外〉の東日本大震災と福島第一原発の事故を経験したわれわれは、想定外のソリューション（解決方法）を要求されています。戦後の日本の既存の組織やシステムの限界が明らかになった今こそ生協の出番です。私はコープさっぽろの一組合員としても、そのCSR活動が、北海道の、そして日本の将来に明るさを見出させてほしい、と大きな期待を寄せています。